



12月 園だより

2020.12.1 名島保育園
園長 林田 睦子

一年間の無事に感謝致します。

今年はコロナウイルスの影響によって生活様式が一変する年になりましたが、悪い面ばかりではなく地球の環境が良い方向に改善されるなど良い面もありました。

コロナウイルスは私達人間が地球をもっと大切にしなければならないよという神様からのメッセージなのかもしれませんね。引き続き、感染症対策にご協力お願い致します。

2021年も皆様にとりまして良い年となりますように、
心からお祈り申し上げます。良いお年をお迎え下さい(^~)

12月の行事

12日(土)

子育て支援・クッキング

保育園年末年始のお休み期間

12月29日(火)～

1月3日(日)まで

1月6日(水)もちつき

講演会の予定

1月23日(土)

岡部賢二先生 講演会

10時～12時

3月13日(土)

吉村春生先生 講演会

10時～12時

12月の一口メモ

じょうどうえ
【成道会】—— 12月8日

お釈迦様が菩提樹の下で悟りを開いて仏陀になった日を祝う。

【世界人権デー】—— 12月10日

昭和23年、世界人権宣言が国連で採択された。

人間が人間らしく生きていくために必要な基本的な自由と権利を、すべての人民と国が守るための共通基準である。

【クリスマス】—— 12月25日

イエス・キリストが生まれた日のお祝い。

日本では大正時代から一般化した。

<お知らせ・お願い>

《『発表会』について(2階クラス)》

12月19日(土)に予定しておりました保育園でのクリスマス発表会は中止です。

今年は動画撮影を行い保護者の方に見て頂く予定です。

どのような形で見て頂くのか、詳細が決まり次第お伝えします。

※ 住所・携帯番号等変更の連絡をお願い致します。

住所・携帯番号・職場の電話番号等の変更がありましたら、その都度職員へお知らせ下さい。

《『もちつき』を1月6日(水)に行います。》

当日の給食メニューはカレーです。

2階クラスのお子さんは、カラのお弁当箱をご持参下さい。(中身は入れないで下さい)

1階クラスは通常通り、保育園で準備致します。

10時頃から「きね」で餅をつくため、お父様のお手伝いがあると助かります。

又、お餅をついている時の「餅返し」や餅を丸めるお手伝いをして頂けるお母様や

ご祖父母様よろしくお願い致します。担任までお知らせください。

《感染症対策について》

年末年始、外出が増えると思いますが、出来るだけ人込みを避けるようにしましょう。

- ① 手洗いやうがいを日常的に行いましょう。
- ② 十分な休養や睡眠をとり、体調を整えましょう。
- ③ 咳エチケットに気を付けましょう。
- ④ 症状のある人はマスクを正しく着用し、感染拡大防止に努めましょう。

インフルエンザに感染した時の、保育園登園基準は以下のようにしております。

**※発熱した日を0日目とし、発症した後5日を経過しかつ、
解熱した後3日を経過するまでです。**

◆お正月にしめ縄を飾る理由◆



お正月を迎えると、日本では古くからその年の歳神様が降りてくると考えられていました。

歳神様は五穀豊穡を叶えてくれる神様と考えられ、農耕民族であった日本人にとって、歳神様はとても大切な存在でした。

その歳神様を迎えるために、「神聖な場所を示す印」であるしめ縄を飾り、歳神様をお祀りし古い年の不浄を断ち、家を清めるということをしていました。

◆神話の中の注連縄(しめ縄)◆

しめ縄の原型とされているのは、『古事記』

『日本書紀』の神話にあらわれる「しりくめ縄」です。

神話によれば、須佐之男命(すさのおのみこと)の様々な乱暴に困り果て、天岩戸(あまのいわと)に籠ってしまった天照大御神(あまてらすおおみかみ)。

天照大御神は太陽の神様、太陽が隠れてしまうと世の中は暗闇となり、暗闇の世界では穀物は育たず、家畜も死に絶え、疫病、悪霊など悪いものがこの世に蔓延りました。

太陽は生き物全ての命の源であり、この世に欠かすことの出来ない存在です。太陽をこの世に戻す為に神々は長鳴き鳥を集めて泣かせたり、舞楽をしたりと色々な手を尽くし、天照大御神の気を引きました。

そうしてようやく外に出て来た時に、布刀玉命(ふとだまのみこと)が岩戸の入り口に「しりくめ縄」を張って、天照大御神に対して二度と岩戸に戻れないことを告げた、とあります。

この神話から、「しりくめ縄」には、その場にみだりに立ち入ることが許されない。また、我々の命の源である大切な太陽がこの世を照らし続けてくれますようにという願いが込められているのだと思います。

門松 神様が家を探すときの目印



鏡餅 神様へのお供え物



国旗

国家と国民が日本の社会に感謝するという意味をこめて、

国家の代表として国旗を掲揚します。

